

長崎の教育・学校現場の今を「ととってmotto!」と「NR」で定期的にお届けします。魅力ある学校や教育に関する取り組み、熱心に子どもたちの育成に励む教員たちを紹介します。

長崎県教育庁働きがい推進室
電話／095-894-3331 メール／s40190@pref.nagasaki.lg.jp

公式 YouTube



公式YouTubeチャンネルを開設しました！ぜひチェックをお願いします！

公式 Instagram



「学校のネタ帳」をテーマに長崎の学校の話を書いています

長崎県遠隔教育センター開設 オンラインで広がる新たな学び

長崎県では5年、10年先の教育の在り方を見据え、「長崎県遠隔教育センター」を2025年4月、県教育センター（大村市玖島1丁目）の施設内に開設します。離島や半島の小規模校をはじめ、県内の高校とオンラインでつなぎ、多様な学びの場や一人一人に応じた最適な学びの場を提供します。

長崎県遠隔教育センターの愛称募集中！



長崎県教育委員会では「長崎県遠隔教育センター」の愛称を募集しています。長く県民に愛され、長崎を感じられるような愛称をどしどし応募ください。

公募時期 12/2(月)～1/17(金)

選考 1月末

愛称決定 2月上旬

教育課程内の配信

小規模校で多様な授業を

遠隔授業の専任教員により、小規模校では難しかった多様な科目の授業や、専門性の高い授業をオンラインで実現でき、教育課程の幅が広がるとともに主体的に学ぶ力を育てます。

例

理科

「物理」「化学」「生物」などの複数科目から選択が可能になる

英語

習熟度や進路希望別にクラスを分けて授業が実施できる

数学

対象校

宇久、豊玉、奈留、北松西、中五島、平戸、諫早東、上対馬、五島南、大崎、西彼杵、小浜、西彼農業、五島海陽、島原翔南

ひと足先に体験した生徒の声

先生がやっていることが大きな画面に映るので見やすく、解説動画もあって分かりやすかったです



分からない内容はチャットで質問でき、動画もアップロードされるので助かります

教育課程外の配信

夢の実現に向けサポートを

小規模校だけでなく、県内の高校等をつなぎ、外部人材を講師に招いたキャリア教育のほか、企業ガイダンスや国際交流などの各種コンテンツの配信も想定。地元で生徒の夢や進路の実現をサポートする環境を整え、地域の魅力発見につなげる狙いもあります。

想定される配信内容

- ・進学希望者などを対象とした特別講座
- ・多彩な外部人材による探究・キャリア講座
- ・韓国語講座や留学生らとつないだ国際交流
- ・公務員試験対策講座
- ・県内企業ガイダンス など

長崎県遠隔教育情報サイト



第70回記念

長崎県小・中学校児童生徒美術作品展

子ども県展 入場無料

総合展

場所 長崎県美術館県民ギャラリー
会期 2025年1月21日(火)～1月26日(日)
開館時間 10:00～20:00

巡回展(開館30分前まで入館可)

場所 波佐見町講堂(東彼杵郡国画工作作品展も同時開催)
会期 2025年1月31日(金)～2月4日(火)
開館時間 10:00～16:00 ※土・日は17:00まで

場所 対馬博物館(対馬市)
会期 2025年2月14日(金)～2月19日(水)
開館時間 9:30～17:00

【問い合わせ先】 長崎県教育庁学芸文化課教育文化班 (電話095・894・3385) 「子ども県展」事務局 長崎市立高尾小学校 (電話095・847・9450)

Teacher's File

長崎の学校で生き生きと働く先生たちにスポットを当てます

今回紹介するのは
新上五島町立北魚目小学校の

堀川 紘子先生

食を通して健康な毎日を

堀川先生ってどんな先生？

献立作成や衛生管理などの給食管理や食育指導をする栄養教諭。民間企業での管理栄養士、行政栄養士の経験も。栄養教諭18年目。小中学校7校を担当。

先生のリフレッシュ方法

家族3人で釣りを楽しんでいます。釣った魚をさばいて調理するのは初めての経験。釣るのもさばくのもっと上達したいです。

教員を目指したきっかけは

家族が病気の時に食事療法を知り、栄養士を目指すことに。病院や老人ホームで管理栄養士をした後、行政栄養士に転職。生涯健康でいるためには、子どもの頃から食に関する正しい知識を身に付け、実践していくことが大切です。すべての子どもたちに食育指導ができる栄養教諭になろうと考えました。

この仕事に就いて良かったと思うとき

子どもたちの「給食おいしかった」という声と食べている時の笑顔を見た時です。さまざまな料理や食材、味に触れ、食の経験を広げてほしいです。また、担任の先生と一緒に食育指導もしており、授業で教えたことを家や学校で続けてくれているのを知るとうれしくなります。

これまでの経験から感じていることは

前職では、妊婦や乳幼児、高齢者などを対象に指導していました。その中で、実現可能な目標の提案と指導後のフォローの大切さを学びました。栄養教諭となった今は、子どもの発達段階に合わせた内容と動機付けを意識して食育指導に努め、指導後の声かけも心がけています。